

愛は私の一切である

ともに生きて ⑩

賀川豊彦 活動開始100年

10日、ノルウェー・オスロでノーベル平和賞授賞式があった。受賞者はオバマ米大統領、その人である。

「世界に悪は存在する。時に武力は必要だ」との受賞演説は物議をかもししたが、オバマ大統領の主導で歩み出した核廃絶へのうねりを止めてはならない。そんな思いを強くした日だった。

実は賀川豊彦も3度、ノーベル

いまに続く道

平和賞候補になっている。

賀川は戦後、東久邇稔彦内閣の参与になり「国民総懺悔運動」を提唱。恒久平和を目的に「国際平和協会」を設立し、機関誌「世界国家」を発行した。

アインシュタインやシュバイツァーら世界の科学者や文化人とともに、すべての国家を統合する「世界連邦」の建設運動にも参加。52(昭和27)年には、広島で「世界連邦アジア会議」を開催し、議長

平和運動 世界から評価

を務めた。

この会議について、国際平和協会会長の伴武澄(58)「川崎市は55年にインドネシアで開かれ、アジア・アフリカ諸国の独立につながった「アジア・アフリカ会議」(バンドン会議)に大きな影響を与えたとみる。「賀川が率いたアジア会議が平和と独立に向けての機運を高めたのではないか」

ノーベル平和賞候補になったのもこのころ。伴は「シュバイツァーらと交流があり、国際平和に貢献した賀川だけに、受賞しても全く不思議ではなかった」と話す。

賀川の神戸での活動開始100年を機に、多様な事業を展開する「賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト実行委員会」神戸YMCA顧問の今井鎮雄(89)「神戸市東灘区」が実行委員長を務める。

今井は東京で生まれ、6歳のとき旧満州・大連へ。上海で終戦を迎えた。引き揚げ後、母校の同志社大に立ち寄ったとき、先輩から生協を手伝うように言われ、神戸に来て灘購買組合(現・コープこうべ)に入った。終戦直後の物資が乏しい状況下、「賀川の精神から『分かち合い、ともに生きること』を学んだ」と話す。

その後、神戸YMCAに入り、青少年の健全育成や社会福祉の向上に尽くした。80(昭和55)年から24年間、賀川が設立した社会福祉法人・学校法人「イエス団」の理事長も務めた。

今井は思う。「現代は情報化社会によって非人間化が進み、『他者とともに生きる』という思いが消え去ろうとしている。賀川が生きていたら何を考えるだろうか」と。

そして、こう訴える。「今こそ、

弱者とともに歩んだ賀川に学び、人が豊かに生きることのできる社会へと変えなければならない」

◆ 今回の連載では、賀川の多様な活動に「幅広い分野に手を出したが、どれも貫いていない」との批判もあることを紹介した。だが、救貧活動も、生協設立も、労働運動も、平和運動も「人間愛」という信念に貫かれた行動だっただろう。賀川にとって、それは一本の道の上にあった。

60(昭和35)年死去、享年71。賀川の老家がある徳島県鳴門市内に記念碑が立つ。そこには、賀川のこんな言葉が刻まれている。「愛は私の一切である」

敬称略 (河尻 悟)

〓 おわり



⑤「今こそ賀川(賀川豊彦)の精神から学ぼう」と呼び掛ける今井鎮雄さん＝神戸市中央区加納町2、神戸YMCA(撮影・長嶺麻子)
⑥米国を訪れた賀川豊彦と妻ハル＝1955年

